

船客万来！築港(OSAKA CHIKKO)を世界を代表する国際集客観光拠点へ！！～クルーズ客船母港化構想～

開発コンセプト

築港の目指す将来像

具体化方策

世界的な創造都市に向けて
グレートリセット

大阪の再生
～都市魅力創造～

『大大阪』にふさわしい
都市魅力創造のシン
ボルプロジェクト

新しい時代の流れ
リ・ジェネレーション

クルーズ市場の成長
～新たな需要の取り込み～

- ・成長著しい観光産業
- ・大阪への寄港ニーズ
- ・大きな経済効果

MISSION

CHANGE

築港の国際的な集客観光拠点化
世界に冠たる築港ブランドの確立をめざす

JOYFULL PORT CHIKKO

集客観光拠点化戦略

戦略1:クルーズ客船母港化構想

経済波及効果が高く、観光都市として世界への発信力の強化にも資するクルーズ客船の母港化(拠点港化)

戦略2:インナーハーバーの再生強化プログラム

民間活力の導入による魅力的な集客観光拠点の創出

- ・天保山ハーバービレッジ
- ・旧サントリーミュージアム[天保山]
- ・中央突堤2号上屋再開発(ピアCプロジェクト)
- ・赤レンガ倉庫

築港エリアマネジメント推進組織(案)

- ・築港の世界へのプロモーション
- ・文化・集客イベントの開催等

- コアメンバー
- ・府市観光部局、港湾局
 - ・区役所
 - ・集客施設事業者(海遊館他)等

必要に応じて参加

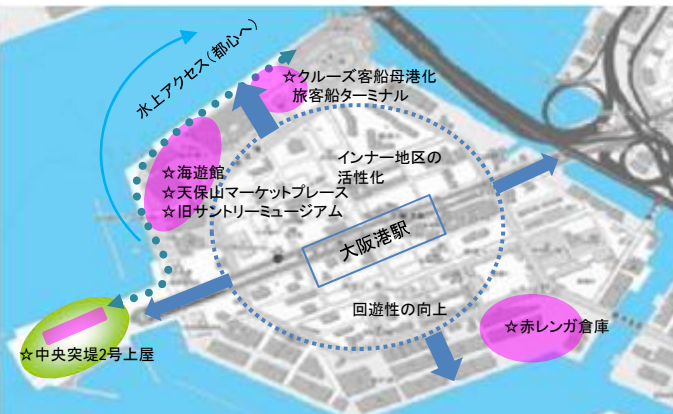
- ・地元NPO
- ・地域活動団体他

築港の強み

- ・豊富な歴史・文化・景観資源
- ・大規模集客施設を核とした多様な観光資源

- ・関西の海の玄関口
- ・日本唯一の客船岸壁
- ・地元のホスピタリティ
- ・都心へ水上アクセス可能

クルーズ客船の母港化による内外集客力強化に新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客観光拠点をめざす



クルーズ客船母港化構想

クルーズ客船が
定期的に発着

クルーズ・シップ・ターミナル・プロ
ジェクト(天保山)



インナーハーバーの再生強化プログラム

魅力的な拠点施設の創出



赤レンガ倉庫活用イメージ

CHIKKO 世界へ開かれた大阪・関西の海の玄関口に

クルーズ客船の母港化

- ★スムーズな入出国体制の確立
 - ・スピーディーなバゲージの受渡施設
 - ・迅速な手続きが可能なCIQ施設の設置等
- ★競争力のある港湾施設使用料
- ★外国人観光客がストレスなく行動(移動)できる環境づくり
 - ・観光案内・買物・両替等のインフォメーションの充実
 - ・案内誘導サインのデザイン統一
 - ・多言語表記化

H24年度クルーズ客船母港化研究会(仮称)

- ★既存旅客ターミナルの全面改修又は建て替え
- ★他港より競争力のあるインセンティブの導入(入港料、岸壁使用料の減免等)

H24年度 官民による「大阪港クルーズ客船誘致連絡協議会(仮称)」立ち上げ

- ★アジア域内のクルーズ船社へのトップセールス

CHIKKO 内外の観光客でにぎわう港まちに

天保山ハーバービレッジ一帯

- ・イベントの定常化による新たな賑わいの創出
- ・ペロタクシー(自転車タクシー)の運行によるエリア内回遊性の向上等

海遊館への一体貸付

人工地盤等の市所有施設を(株)海遊館に一体貸付し、民間のノウハウを活用したサービス向上

旧サントリーミュージアム

- ・海遊館と集客観光面で相乗効果の期待できる施設利用へ転換

民間活力導入による集客力の強化

- ・民間に全体を長期貸付(公募)
- ・24年度内はツタンカーメン展後暫定活用を公募

中央突堤2号上屋

- ・美しい夕陽を感じるロケーションを活かし、周辺の緑地・岸壁と連携した集客・交流拠点へ転換

民間の企画力を活用した施設へ再生

インセンティブを付し事業者を公募(H24年度末物流施設として供用廃止)

CHIKKO 風情感じる港まちに / 楽しさあふれる港まちに

赤レンガ倉庫

- ・歴史ある港風情を活かした集客拠点の創出

民間への売却・賃貸による再生利用

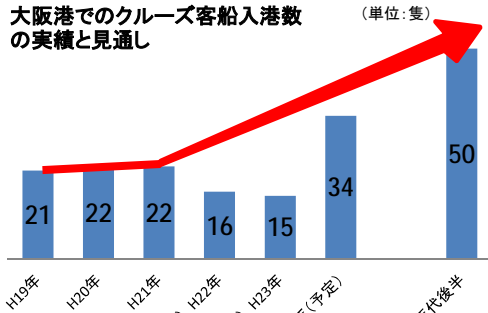
- ・耐震補強を民間事業者が実施できる売却・賃貸条件を設定し公募
- ・倉庫横広場では文化・交流拠点として「天保山まつり」や「築港キャンドルナイト」等の文化・芸術・集客イベントを支援

クルーズ客船の現状・効果

アジアにおいて成長著しい観光産業

大阪への寄港ニーズの増加

大阪港でのクルーズ客船入港数の実績と見通し



※1) リーマンショックの影響による減少
 ※2) 東日本大震災の影響による減少

クルーズシップターミナルプロジェクト
イメージ(天保山)



ピアCプロジェクトイメージ
(ウォーターフロントのにぎわい創出)



欧米の主要クルーズ船社が相次いで東アジアに進出
日本においても母港(拠点港)化の検討を進めている



クルーズ客船母港化(拠点港)の効果

- ① 経済波及効果
 - 寄港地である場合の約10倍の経済効果
 - 経済効果: 年間約207億円
 - 税 収: 年間約 25億円
 - ※大阪港を母港とし乗船客2500人のクルーズ客船が1回ノ 週航海したケースを試算
 - また、母港となると入港回数の増加が見込まれる
- ② 観光都市としての世界への発信力の強化
 - 大阪の世界プロモーションの旗印、都市ブランドの向上
 - (大阪から世界へクルーズ客船が就航しているという魅力)
 - ・シビックプライドの醸成

築港でのクルーズ客船の母港化に向けて、寄港ニーズの増加と海外船社の母港化検討のタイミングを捉えるチャンス

主要事業スケジュール(案)

